

高蔵寺ニュータウン・ハナモモ桃源郷の会

(愛称 ハナモモの会)

地域の人たち

子どもから高齢者、そして障がいを持った人たち全ての方が幸せを感じられる、ハナモモの咲く桃源郷づくりをすることで、

賑わい・共生・コミュニティ形成を目指します。

この「桃源郷プロジェクト」を推進する市民活動団体が「ハナモモの会」です



現在、高森台県有地では社会福祉法人などの施設の建設が進んでいます。これらの施設群周りを手始めに、いつの日か県有地の周囲、更にはその周辺地域までハナモモで縁取り、華やぎのある「桃源郷」を創り上げて、住民の誰もが心安らぐ場所を創ろうというのが「桃源郷プロジェクト」です。

桃源郷
プロジェクト

住民参加型活動 活動 通年型活動

◆ハナモモ育樹祭

阿智村の「花桃の里」を訪ね、その素晴らしさに圧倒され、是非ニュータウンにもハナモモの咲く桃源郷を創りたいと思ったのが 2016 年。阿智村からハナモモの苗を求め、ハナモモのリリースが始まりました。阿智村のハナモモのルーツは福澤桃介がドイツから持ち帰った花桃。それを受け継ぐ形で始まったのが 2017 年 2 月の第 1 回ハナモモ育樹祭。ハナモモの咲く桃源郷をこの地にも創りたいと毎年 2 月～3 月に、市民の皆様と共にハナモモの苗を植えています。

◆花壇づくり

身体を動かす具体的活動は、高齢者福祉施設「どんぐりの森」のアプローチ横の花壇づくりが最初。知恵を出し合って作った素人づくりの花壇で、四季を通じて花を咲かせる活動です。これはプロジェクトメンバーと花咲かサポーター、そして時には地域住民の力を得て創り上げるコミュニティガーデン。「みんなの花壇」づくりは当会の主要活動の一つです。

◆ヒマワリ里親大作戦

ハナモモの植栽に比べ、身近に関われる活動として始めたもの。ヒマワリは誰からも愛される夏の花。里親を希望する方に育苗キットを渡し、家庭で育てていただき、定植可能になった苗を持ち寄り、皆で花壇に定植します。皆で育てるという共同作業の中から、ゆるやかなコミュニティが出来上がります。

◆お手いれ活動

花木の世話をするのは大変です。外で活動をするメンバーは、月 3 回から 6 回、草刈り、水やり、施肥、薬剤散布などを行います。遅刻・早退、欠席自由という縛りの無いルールで、お喋りしながらのお茶タイムを挟んでの自発的活動です。

◆2012 年 「高森台県有地の活用を提案する市民の会」を設立

★高森台に手つかずのまま残されていた約 80000 m²の土地の活用を提案することで、新たな“まちづくり”に繋がれないかと有志 42 名で発足。

市民協働の勉強会などを重ねるうち、具体的活動を行うことで行政・市民・地域住民、さらには地元企業との連携が得られ、活動に弾みがつくのではと考えるように。

★未利用地の存在を知ってもらうために、1/400 の模型を作り巡回模型展の開催もする。

◆2015 年 会報「Tomorrow」の発行開始

◆2016 年 南信州 阿智村の「花桃の里」を訪問。

★以前、阿智村は限界集落に近い寂しい場所でした。そこには、一人黙々とハナモモを植え始めた人が、やがては地域を巻き込み村民の協力体制を築いていった歴史があります。植樹が創り上げたコミュニティを自分たちも実現させたいという想いが「桃源郷プロジェクト」に繋がりました。

◆2016 年 「ヒマワリ里親大作戦」開始。

★気軽に誰もが参加できるものとして開始。里親を募り種を配布。3 週間家庭で育ててもらいその後定植。

◆2017 年 2 月 「第 1 回ハナモモ育樹祭」開催。以後 2 月～3 月に毎年開催

◆2019 年 5 月 「高蔵寺ニュータウン・ハナモモ桃源郷の会」と名称変更

★親しみやすく活動にあった名前に変える。

活動の経緯

組織

高蔵寺ニュータウン・ハナモモ桃源郷の会

正会員

賛助会員

総会

運営委員会

桃源郷プロジェクトチーム

花咲かサポーター

活動資金

- ◆会員の年会費
- ◆寄付金
- ◆助成金
- ◆花咲か基金
- ◆特別協賛金

※正会員と賛助会員の違いは総会における議決権の有無のみ
※花咲かサポーターは会員以外の自由な活動支援者